

**防災**

**広域での防災対策**

**防災訓練事業**

2市1町合同で入間東部地区総合防災訓練が実施されます。異なる市町でも生活圏が共通する地域について、避難所を共同して開設する初の取り組みも行われます。

**問** 今回の合同防災訓練の内容は。

**答** 入間東部地区合同防災訓練を11月12日(日)に2市1町の合同で実施する。

花の木中学校をメイン会場に、新たな取り組みとして3つの行政会場を設定する。

富士見市立勝瀬小学校、ふじみ野市立大井小学校、西原小学校を予定している。

平成8年に締結した災害時応援協定の中で避難所の開設を近隣市町で協力し合うという合意があり、それを具現化した訓練となっている。



平成 22 年に行われた訓練の様子

**まちづくり**

**地域資源の活用を**

**空家対策事業**

平成29年4月1日、空家等対策の推進に関する条例が施行されました。市では、それを受けて、空き家バンクなどを活用し、さらなる対策が進められます。

**問** 具体的にどのような事業を行っていくのか。

**答** 空き家バンク等を活用し、宅地建物取引業協会とも協定を締結する予定。関係団体と連携し、空き家対策全般に取り組みていきたい。

**問** どのように周知・啓発を図るのか。

**答** 平成29年度の固定資産税の納税通知書の中に空き家バンクやシルバークリスタルの活用等の情報提供のチラシを同封し周知したい。

また、担当課の変更に ついては、市報や庁舎内の案内板等でも周知していく予定である。

**福祉**

**子どもたちに希望あふれる人生を**

**福祉総合支援事業**

子どもの6人に1人が貧困と言われる昨今。貧困の連鎖を断ち切るための取り組みが進められます。

**問** 学習支援の課題は。

**答** 全国的に、福祉部門と教育委員会との連携不足が指摘されている。本来、支援を必要とする子どもたちの利用につながりづらい現状があり、周知方法や開催場所、開催回数を見直していきたい。

**問** 外国人の親をルーツに持つ子どもへの支援は。

**答** 日本語の読み書きにも苦労している子どもたちもあり、平成29年度策定の計画において、切れ目のない施策を展開していきたい。



ふじみの国際交流センターによる日本語教室

**福祉**

**誰もが安心して学べる機会を**

**障がい者地域生活支援事業**

全身性障がい者に対し、通学を支える介護者が派遣されます。

**問** 事業の経緯は。

**答** 全身性障がい者が、施設に通所や入所する場合のサービスはあるものの、学校へ通う際の支援制度がなかった。今回市内在住の全身性障がい者が大学に入学するにあたり、介護者を派遣するための補助を行っていく。

**問** 大学入学を目指す障がい者が増えていると言われている。支援の考えは。

**答** 障害者総合支援法にあるとおり、障がいの有無に関係なく、誰もが差別なく暮らせる共生社会を築いていくという観点から支援を行っていく。



本人を交えた介助の打ち合わせ

**子育て**

**妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援を**

**子育て支援センター運営事業**

母子保健や育児に関する様々な悩みに円滑に対応するための支援が行われます。

**問** 子育て世代包括支援センターの特徴は。

**答** 妊娠期から子育て期に渡るまで、地域の特性に応じて専門的な見から切れ目のない支援を行うこと、ワンストップで相談ができること、地域の様々な関係機関と連携することが基準として挙げられている。

**問** 子育てコンシェルジュ事業など、これまでの子育て支援センターとの具体的な違いは。

**答** 妊産婦の支援プランやカルテ等の作成、保健師・助産師による産前産後のケア等が新たに加わることとなる。

**まちづくり**

**安全な自転車利用を**

**交通安全推進事業**

埼玉県西部地区で初となる自転車ネットワーク計画が策定されます。2市1町の連携を図り、自転車利用者などの安全を確保し、必要な施策が展開されます。

**問** 自転車ネットワークを構築する上で、市内のどのような主要地点を結ぶのか。

**答** 駅等の公共施設、保育所、商業施設など自転車の利用が多い場所を考えている。

**問** 近隣市町との連携について、具体的な話し合

いや手法の検討状況は。

**答** 2市1町は生活圏が密接な関係にあり、警察署の管轄も同じである。行政間でネットワークが分断されることがないよう、富士見市と三芳町にも計画に携わるように協力を求めていると考えている。



自転車走行指導帯